

わかたけ ミニセルリー「若竹」の安定多収栽培

山形県村山総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

全国で唯一、山形市のみで栽培されているミニセルリー「若竹」(図1)は、近年需要が急拡大し、若手を中心に生産者数及び栽培面積が増加した。しかし、栽培方法が未確立で、収量・品質の個人差が大きく、生産が不安定である。そこで、確実に増収できる栽培技術として、灌水方法、栽植様式、定植時期に着目した安定多収栽培技術を開発した。

研究の成果

- ① 産地で慣行として行っている頭上灌水に、灌水チューブによるマルチ内灌水を組み合わせると、均一に灌水ができ増収する(図2)。
- ② 春どりハウス栽培及び8月中旬に定植する秋どりハウス栽培では、従来の株間25cmに比べ、株間22~23cmに密植すると、a当たりの商品本数が2割増加する(データ省略)。
- ③ 秋どりハウス栽培の定植晩限の9月上旬定植は、密植で減収するため、従来の株間25cmで定植する(データ省略)。
- ④ 上記の灌水方法、栽植様式、定植時期の新技术を組み合わせると、従来の栽培方法に比べ、安定的に多収となり、所得が増加する(図3、図4)。

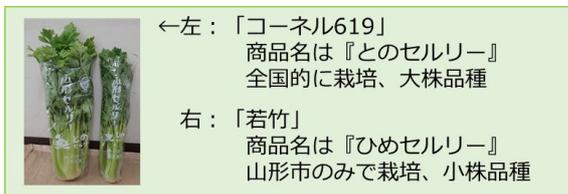


図1 セルリーの品種

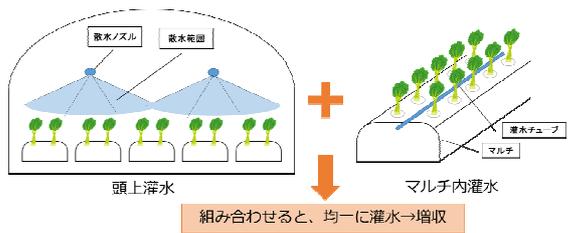


図2 灌水方法の模式図

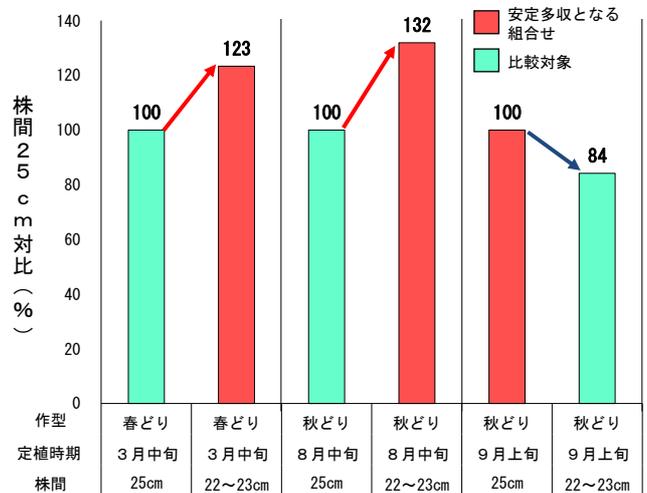


図3 作型別の株間25cm(従来)に対する株間22~23cm(密植)の所得割合(株間25cm=100)

作型	定植時期	灌水方法	株間	月												株間25cmに対する増収率(収量)		
				12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
春どりハウス栽培	3月中旬	マルチ内灌水	22~23cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	123%
秋どりハウス栽培	8月中旬		22~23cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	118%
秋どりハウス栽培(晩限)	9月上旬		25cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%

○播種 ▲定植 □収穫

図4 ミニセルリー「若竹」の安定多収栽培の栽培暦

問い合わせ先：園芸研究担当 TEL:0237-84-4125 e-mail:yurayamasanchi@pref.yamagata.jp